

# 文化

12

立川と語ろう 立川に生きよう  
December 2003  
écoutez bien Vol.22 No.229



表紙の人 / 松本雅隆 (幸町)  
写真 / 細江英公



多摩川の晩秋を彩ってきた花、カワラノギクが絶滅の危機に瀕している。かつては、河原一面に薄紫の霞がかかったように咲いていた花がほとんど見られなくなってしまった。絶滅を防ごうと、人の手で保護育成する努力が続けられている。

昭和49年11月8日NHKで放映された「多摩川へい」を連想させるカワラノギク（三田鶴吉さん提供、隣は須磨佳津江さん）

# 消えないで! 晩秋の風物詩

## 絶滅危惧植物カワラノギク



写真：五来孝平



カワラノギクは立川で発見された野草だ。昭和2年（1927）に立川が多摩川で採集された標本が昭和11年（1936）に新たな種として専門誌に発表された。命名者は京大名誉教授の北村四郎氏。関東地方でも多摩川、相模川、那珂川、安倍川、鬼怒川の玉石がゴロゴロしている肥料分に乏しい河原にしか生えない。

立川の三田鶴吉さんは早くからカワラノギクの保護活動を行ってきた。上の写真は1974年当時のものだが、河原一面に霞がかかったように花が咲いている。その後急激に減少し稀少植物に。2001年9月の台風被害で福生から下流では壊滅状態になった。

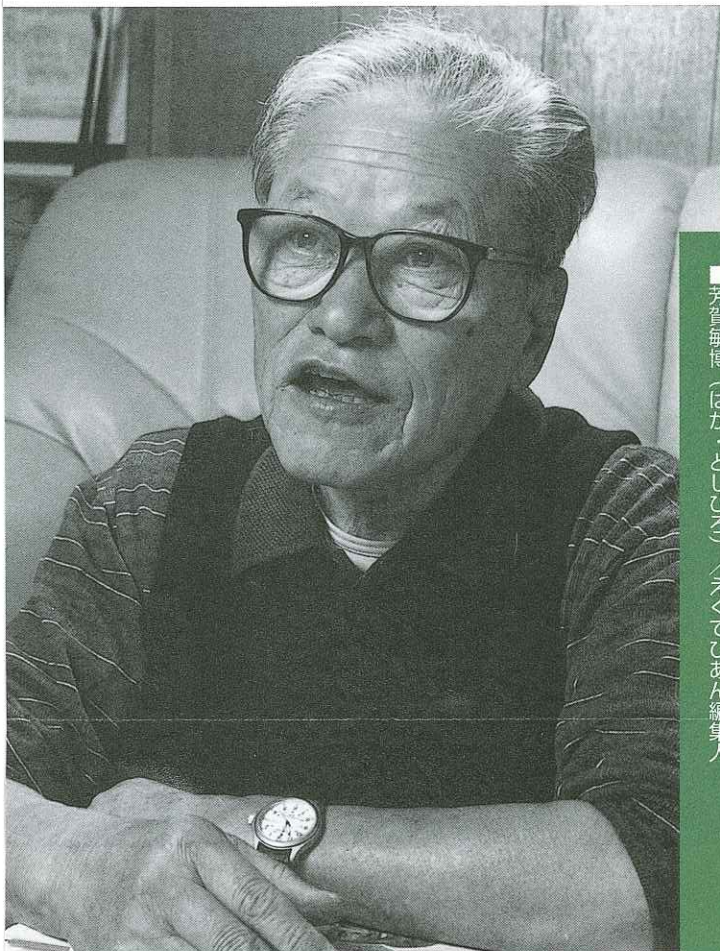
ダムによる洪水の減少などが原因と考えられるが、羽村では「はむら自然友の会」が中心となり保護を続けている。玉石の多い河川敷に許可を受けて設けた約400平方mの育成地に種を播き、夏から手作業で他の野草を抜いたり害虫をつぶす。いま一番の敵は赤いアブラムシと急激にはびこってきた寄生植物のアメリカネナシカズラ。花の季節には会員が見物に来た人たちに解説もする。かつて流域で広く見られた可憐な花。絶滅はしてほしくない。



- ①「はむら自然友の会」岡崎 学さん提供
- ②「はむら自然友の会」のカワラノギク育成地
- ③来年咲く小さな株も育っている
- ④大敵のアメリカネナシカズラ



# 科学の眼で江戸の立川を読む



於：柴崎町・庄司邸  
写真：五来孝平

## 古文書から立川の地震記録をまとめた 庄司 亮さん

■庄司亮（しょうじ・りょう）／1925年山形県酒田市生まれ。43年に酒田測候所に勤務し、47年気象大学（当時気象技術養成所本科）卒業後気象庁に勤務。51年明治大学政経学部卒業。気象庁予報官を経て85年成田空港新東京航空気象台予報課長で退職。著書に『天気の話み方』（ユニ出版1977年）など。登山などを通じて作家の故・新田次郎氏と親交を持ちいくつかの小説の登場人物のモデルとなっている。

■芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

**芳賀** 今度、けやき出版から『立川における地震記録』という本を自費出版されましたね。庄司さんには以前から山のことで新田次郎さんとの交友のことなどをうかがうことが多かったんですけど、今日はこの本のことを中心にお話しさせてください。題名からして、なんだかむずかしそうですが……。

**庄司** 立川市から全20冊の活字本として刊行されている『公私日記』という村明細書はご存じでしょ。江戸末期に当時の武州柴崎村の名主、今でいえば村長さんをしてた鈴木平九郎という人が書き残した天保八年から安政四年まで21年間にわたる詳細な記録です。この中から地震に関する記述を抜き出

して整理し、理科年表に記載されている地震記録と対応させてみました。さらに関東大震災についての立川の記録を加えて、立川の地震防災の問題点にも触れてみました。

**芳賀** 『公私日記』は、幕末の激動期に向かう世相の動きや当時の日常生活を知る上で貴重な資料とされています。白状すると僕はまだちゃんと読んだことがないんですが、地震という切り口で読み込むというのは初めてでしょうね。そこに目をつけられたというのはやっぱり、ずっと気象庁にいらしたから？

**庄司** 僕が立川人になったからかな（笑）。戦後気象庁に勤めて住むところがなくて困っていたら、ちょうど一足

先に東京に戻っていた同僚が「ちょっと遠いけど立川の俺の家に空いている部屋がある」というのでやってきて、それ以来54年住んでいますからね。故郷は山形県酒田市だけど酒田の大火で実家も焼けてしまったし、立川の歴史を調べてみようとして10数年前から『公私日記』に取りかかったんです。人文科学の方面では多くの人が研究しているから、僕は自然科学的に追求してみようと。それには地震がいちばん手取り早い（笑）。

**芳賀** 手取り早いなんておっしゃいますが、印刷本とはいえ読みにくい古文書を通読して、その中から地震の記録を丹念に拾い出すだけだって相当な手間がかかるでしょ。

**庄司** 日記は全部旧暦ですから、それを全部現代の新暦の年月日に換算する。変換する方程式があるんですが、これに一番手間がかかったかな。地震の記述のある年月日を理科年表の記載と照らし合わせると発生時刻まで大体ぴったり合います。『公私日記』を何遍も読むんですが、読み込めば読み込むほど自分がその時代に入り込んだみたい身近になって、面白いですよ。

**芳賀** そういうことから、どんなことが分かりますか？

**庄司** 昔は地震計がありませんから、地震があったことが分かっても強さや規模は想像するしかないんですが、その時代の文書によってどこがどのように崩れたなどの被害状況や人体の感じ方が分かると、地震の範囲や大きさが推定できる。そういう意味で各地の古

文書、村日記は貴重な資料になるんです。その中でも『公私日記』は非常に精緻で、例えば安政元年（嘉永七年）の安政の大地震、翌安政二年の江戸地震では立川では大きな被害はなかったけれど、各地の被害状況についての情報が折り込まれている。安政元年の地震では「甲信駿州あたり大震ひし、人馬も損したと評判である。当柴崎村の近辺でも小仏峠の向いまでは、人家余ほど潰れた様子である」とか、豆州下田で当時停泊していたロシアの軍艦ディアナ号が津波で流された話も10日ほどちゃんと伝えられています。

**芳賀** へえ！ 江戸時代は封建時代というイメージがあるんですが、大変な情報網ですね。『公私日記』の頃から関東大震災まで立川では大きな地震被害はなかったようですが、庄司さんは＜大丈夫論＞を戒めていますね。

**庄司** 立川は地盤がいいから大丈夫と思っている方が多いかもしれないけど、段丘下の田圃だったところは強い地震があると液化現象を起こすことが古文書にも書かれています。関東大震災のときは大八車に家財道具を積んで逃げようとして火災を大きくし、酒田の大火でも荷物を積んだトラック同士が衝突して道を塞いで積んでいた荷物が火災を大きくしているように、大震災の時は避難者の荷物も大問題です。高層ビルから落下するガラスや高速道路、バイパスなど、これまで経験したことのない要素もありますから、防災業務上しっかりしないとイケない。この本で訴えたかったことです。

**芳賀** 古文書を科学の眼で読み込んでいくと、今まで見えなかった江戸時代の立川が見えてきそうじゃないですか。地震だけで終わらせるのはもったいない。

**庄司** まだ途中なんですけど、『公私日記』に詳細に記されている天気記録をもとに、この時期の立川の気象をまとめていくところなんです。大学ノートに天気や寒暖、風向きなどの記録と特記すべき農作業、服装、季節の行事などをすべて書き出して、今それを点検しながら整理しているところです。完成まであと2年はかかりそうだな。長年天気図を描いて予報をしてきましたから、日々の気象記録を見ていくと当時の立川周辺の天気図が浮かんでくるんですよ。「大風来る」としか書かれていなくても、前後の変化からこの日相模湾あたりに台風が上陸したんだとか……。

**芳賀** 実際にはなくても、江戸時代の立川の人たちが肌身で感じていただろう感覚がわかるって、なんだかワクワクしますね。ぜひ本にまとめてくださいよ。

**庄司** こんなことにどれだけ関心を持つ人がいるか分かりませんが、たとえば小説家が幕末のある日、ある歴史上の人物が武州柴崎村を通ったと書くとして、その時の天気や寒さ暖かさがどうだったかが分かるのと分からないのでは全然描き方が違うと思う。立川の歴史を自然科学的に追ってみようと始めて、文章にまとめてみると、会ったこともない過去の立川の人たちがずっと以前からの知り合いのように親しみ深くなるんです。いよいよ僕も立川人になったんだね（笑）。

藤レディース 立川支店	柴崎町2-4-19-1F 528-5101
Cafe COLORADO	柴崎町2-5-8 526-2285
マエダ文具店	柴崎町2-6-2 525-6584
Natural Life Shop ビュアグリーン	柴崎町2-6-2 521-2690
スタジオ269	柴崎町2-8-10 527-0269
写真の エース	柴崎町2-9-2 523-0851
Fashion You Me	柴崎町2-9-28 523-1640
石原薬局	柴崎町2-10-3 523-4067
豆腐 やざわ屋本店	柴崎町2-10-14 522-4338
立川中医整体 健身院	柴崎町2-11-21 522-0050
サイクルハウス 輪輪館	柴崎町2-12-17 522-8100
ビジネスHOTEL クボタ	柴崎町2-12-23 522-1122
いなげや 立川南口店	柴崎町2-12-24 526-2947
いなすし・のり巻きすし 松月	柴崎町2-17-20 523-4758
カフェテリア 木の葉	柴崎町2-17-23 522-9251
カレーショップ 砂時計	柴崎町2-18-10 525-2414
クリーンデンタルクリニック	柴崎町2-21-12 527-1137
ビューティサロン ウィスタリア	柴崎町2-21-15 527-1116
ロッセリア 立川南口店	柴崎町3-1-3 522-3928
とんかつ専門 かつ亀	柴崎町3-5-2 525-7647

えくてびあんの輪

人があて、街があります。  
あなたがあて、立川があります。  
そこにちょっとだけ、えくてびあん！  
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

今月は柴崎町・富士見町のお店です。

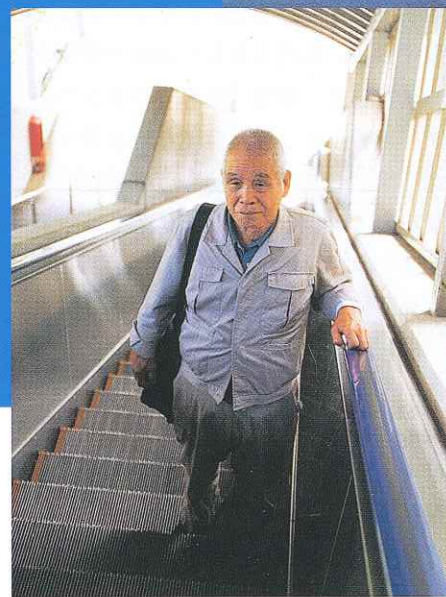
毛糸手芸 洋裁材料 HATOYA	柴崎町3-5-21 524-8108
多摩中央信用金庫 南口支店	柴崎町3-5-22 528-2211
サンカメラ	柴崎町3-7-22 522-3336
バックージプラザ カサイ	柴崎町3-8-7 522-8601
りそな銀行 立川支店	柴崎町3-10-1 522-4161
手打ち ぎょうざ工房	柴崎町3-11-25 522-4770
松山堂薬局	柴崎町3-13-25 522-2550
こむろ酒店	柴崎町3-14-3 522-2613
喫茶 ギャラリー 花	柴崎町3-14-6-1F 524-3668
矢沢歯科眼科	柴崎町3-16-2 525-6600
株式会社 京王ストア 立川店	柴崎町3-18-10 540-1131
NPO法人 東京賢治の学校	柴崎町4-13-18 523-7112
株式会社 浅見酒店	富士見町1-2-7 522-2823
伊藤接骨院	富士見町1-4-29 524-7861
手作りケーキの店 プティパニエ	富士見町1-22-30 529-8364
株式会社 ダイクマ 立川店	富士見町1-24-9 526-1046
榎本調剤薬局	富士見町1-31-18 526-2322
うさぎ専門店 ラッキーラビット	富士見町2-11-7 524-6054
有限会社 白洋舎	富士見町2-24-16 522-5952
立川市歴史民俗資料館	富士見町3-12-34 525-0860



# 84歳の青春

## 大学生・原田義道さんのキャンパスライフ

「えくてびあん」が80歳代の現役高校生として原田義道さんと対談させていただいたのは昨年1月号のこと。それから約2年。原田さんは今春、日野市にある明星大学に見事合格、経済学部の学生として毎日通学している。勉学にサークル活動に、孫のような学生に囲まれて学生生活を満喫する原田さんは、84歳にして青春まっただなか。

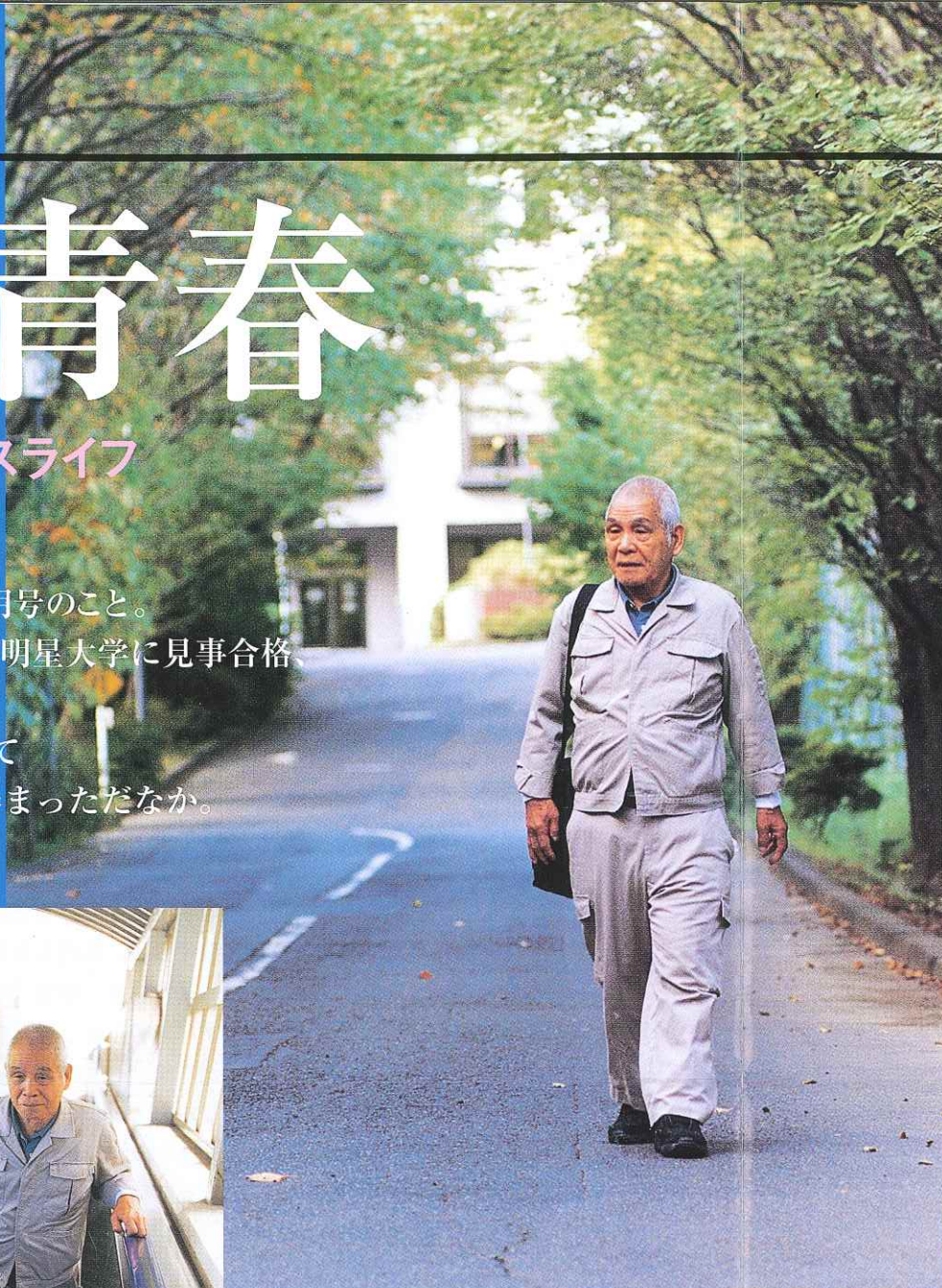


モノレール駅からエスカレーターで高台の学校へ



学食での好物はカレーライス

写真：五来孝平

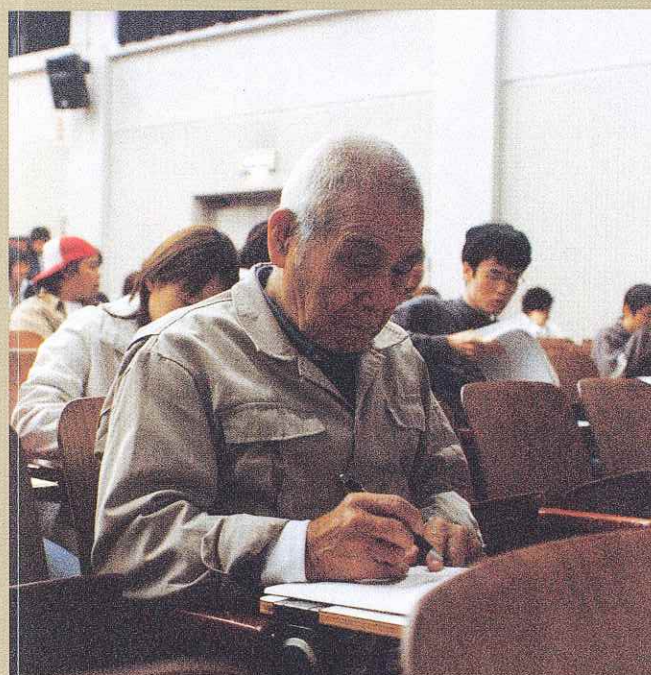


原田さんの毎日は忙しい。第一講のある日は朝7時30分には家を出て自転車とモノレールを乗り継いで早めに学校に着く。夕方まで講義を受け、同じ経路で帰宅してから食事を自分で作り、その日の復習と翌日の予習をする。いまどきの学生諸君にも見習ってもらいたい学生生活だ。

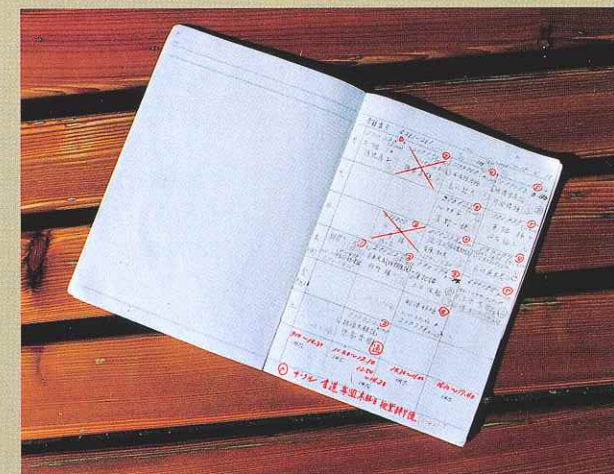
「後からまとめてやろうというのが嫌いなんだよ。食事の片づけもそのときしてしまわないとだめ。勉強もその日のうちに復習しないと頭に入らない」。

76歳で建築関係の仕事を辞めてから夜間中学に入学。それから高校、大学と進んで学び続けている。専門の経済学のほかにビジネス英語など大学の授業はやはりむずかしいし、試験もある。しかし「勉強というのはおもしろいよ」。初めて触ったパソコンは、夏休みに教官に頼んで特訓を受けた。

「夜間中学にはけっこう年齢の近い人もいたけど、学校が進むたびに周りが若くなっていったね」。入学前には孫に付き添ってきた人かと間違われたこともあったが、マスコミにたびたび取り上げられたこともあって今では学内の人気者。ノートの間には女子学生からプレゼントされたプリクラや携帯電話・メールのメモがたくさん挟まっていた。



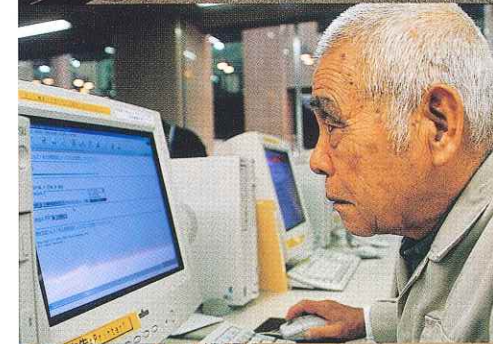
講義は常に前方に席を取り、熱心にノートをとる



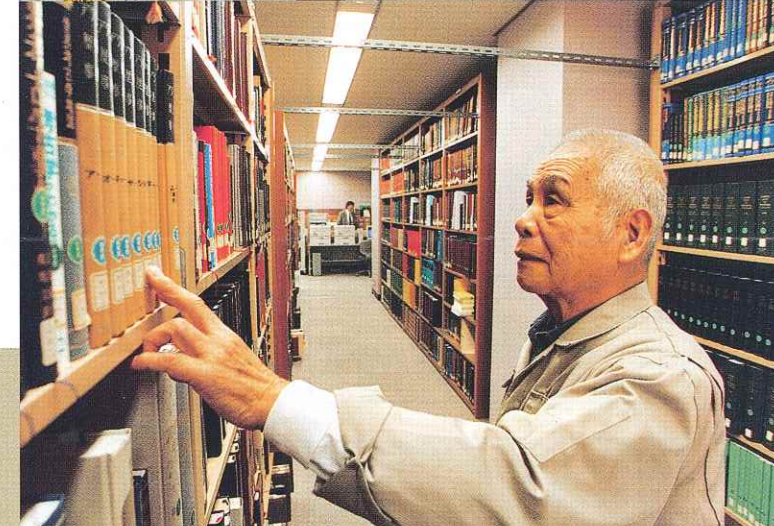
時間割やサークルの予定の書き込まれたノート



広いキャンパスにもすっかり慣れた。早めに登校して余裕をもって講義に出席する



夏休み返上で特訓を受けたコンピュータを使う





松本雅隆さん(幸町)

現代の西洋音楽のもとになりながら忘れられがちな中世・ルネサンス時代の音楽を独自のスタイルで演奏するカテリーナ古楽合奏団を結成したのは1973年。以来30年にわたって古楽と民俗楽器、空想楽器の先駆者、第一人者として活動を続けている。92年に玉川上水にほど近い幸町に稽古場兼ライブスペース「ロバハウス」をオープン。子どもたちに音楽の楽しさを伝える「ロバの音楽座」を含め、立川を拠点に世界で活躍する現代の音楽師。

幸町「ロバハウス」にて 写真：細江英公

かたこと

毎年巡ってくるとはいえ本年も大詰め。「えくてびあん」12月号をお届けいたします▼不思議なもので年齢を重ねるにつれて1年が過ぎるのがどんどん速くなるように感じます。えくてびあんも休刊を経て20周年の8月から再スタートして5号▼が、今月のVIEWに登場願った原田義道さんとお話ししていると、そんな若輩の弱音が恥ずかしくなります。84歳現役大学生のいつも前向きな姿勢。こちらががんばらなくては！▼対談をさせていただいた庄司亮さんも78歳で『立川における地震記録』を上梓。次の本の執筆に向け意欲満々です▼表紙の人、そして「えくてびあん流」でも「古楽市場」のニュースをお知らせした松本雅隆さんとカテリーナ古楽合奏団はNHK大河ドラマ『武蔵』にも出演したので見た方も多いかと思えます▼「この人、この店」のサブタラ R. アラチイさん、「タチカワ誰故草」の駅弁観音さん……お店の女性のさりげない笑顔は何にもまさるおもてなしです▼みなさま、良いお年をお迎え下さい。(芳)

スタッフ  
編集 大久保清志/清水恵美子/杉山清純  
中薫子  
デザイン ウォーターデザインアソシエイツ 池田隆男  
AMNET design factory  
写真 五来孝平/松本賢子

えくてびあん (C) 12月号  
第22巻 通巻229号  
平成15年12月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 加賀悦也  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

◆ タチカワ誰故草 ⑤ ◆  
アヴェ・マリアと駅弁観音

森 忠明

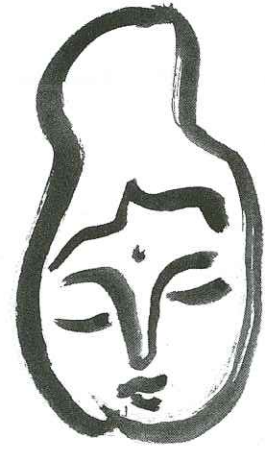
私の更年期はひどかった。闇雲に死にたくないのである。五年前の五十歳の夏で、その頃出版されていた木の実ナナ氏と落合恵子氏の更年期本を読んだら、鬱気や火照りや痒みや不眠など、症状が二女史と同じだったのだ。「俺はオンナだったのか……」と声にだし、あとは呆然と天を仰いだ。

当時八歳の我が娘は「ゆっくりりななおすしかないわね。今晚いっしょに寝てあげようか」と慰めてくれたが、妻は夫の取柄に冷眼を向けるだけであった。帯広市在住の詩友、梅津邦博氏は心配そうに電話をかけてきて、「転地療養しましょう。十勝平野を時速百キロで走り、日本一の清流札内川で泳ぐんです」

本業のテラーを休み、よれよれの私を愛車に乗せて、然別湖や更別村の柏林へ案内してくださった。それが立ち直りのきっかけとなった。彼には深謝している。

私小説の大家上林 暁に、「ずばり『更年期』(昭和二十三年作)という短篇があり、これも良薬だった。畏敬する後輩太宰治の死によって心身のバランスを崩し、あげくは半狂乱の態を、鬼気迫る筆致で描出。こんな豪い作家でも俺と同じ具合だったんだなあ、と思うと、真底救われた気分になれたのである。

〈更年期全快祝いに、豚丼か何かで一杯やりませんか—— テーラー



挿画：野崎義成

1・ウメツ  
今秋、かの帯広詩人から御招待のFAXが届き、へそちらの美景も結構ですが、夜の美形で目の保養もしたいななどと、調子づいた返信をしてしまった。

純情、真つ正直なウメツ氏は帯広空港で私を迎えようとすぐグロリアを九十キロで飛ばし、「北海道で一番美しい女性がやっている料理屋にお連れします。店名は『月』、ママの名前は古屋澄江さんです」と言ったあとは、スラヴァの『アヴェ・マリア』(シューベルト作曲)を音量いっぱいに聴き惚れるのみ。お告げの天使以上に神々しいカウンターテナーと、遠方に白雲をまどって横たわる日高山脈とが、絶妙にマッチして、実にぜいたくなドライブだった。

「月」のママは確かに超美人で、澄みしきる瞳は摩周湖を想わせるようであり、どうやら詩人にとってのマドンナのようであった。「森さんとこの立川にも美女が多いですけど、一番となると、どなたですか」

清酒山を聞きし召したウメちゃんの質問に、私は即答した。「JR立川駅4、5番線フォームのEKIBENコーナーにいるおばさんです。名は知りません。外見的美はさておいて、あの女人の、大慈悲あふれる接客態度は美の極みでして、いつも心身一洗されるんです。更年期のヒデーときに、あの温顔と出会ってればね……僕は駅弁観音と名付けました」

TMM——  
冬はハッピー・クリスマス

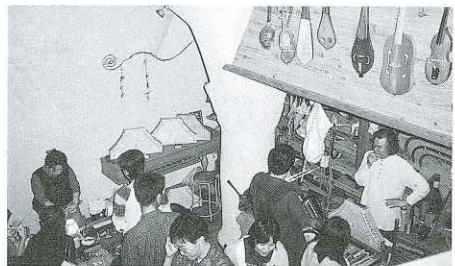
TMM(TOUCH Music Music実行委員会)では12月9日午後7時から、立川駅北口多摩中央信用金庫本店8階にて、ジャズコンサートを開催します。題して<TMM HAPPY CHRISTMAS JAZZ CONCERT 2003>。出演者は、都内のライブハウスで活躍中の土井孝幸&古川奈都子スペシャル・カルテットと、下田卓&カンザスシティ・バンド。木枯らしの季節、ホットでスインギーな演奏を心ゆくまでお楽しみください。当ジャズコンサートに抽選で25組50名様を無料ご招待します。ご希望の方は往復ハガキに、住所、氏名、年齢、電話番号、同伴者1名の氏名、年齢を明記の上下記宛先へ。厳正な抽選の上、当選者には招待状の発送をもって発表にかえさせていただきます。締め切りは11月28日当日消印有効。応募宛先 〒190-0012 立川市曙町2-9-1 菊屋川口ビルディング305 マーレTMMジャズコンサート2003係



えくてびあん流

おとぎの国から飛び出した  
ロバハウスの古楽市場

10月12、13日の2日間、玉川上水沿いにあるロバハウスで古楽市場が開かれました。珍しい古楽器やその楽器を使ったCDなど、古くて新しい、どことなく懐かしい、さわってみたい、鳴らしてみたい、聴いてみたい、そんなものたちが集まりました。ショップではなく、国籍も時代も飛び越えておとぎの国が目の前に広がっているような2年に一度しか行われないイベントです。この日を待ち望んでいた多くのファンが詰めかけて、身動きできないほどの大盛況でした。立川デザイン賞を受賞したキノコ形のユニークな建物が、川のほとりに美しい。12月にはここでロバの音楽座ライブコンサート「ロバのクリスマス」が行われます。



この人この店 ⑤

スリランカカレー 本場の味  
アジアンフーズ

オーナー サブタラ R. アラチイさん



インド料理とはひと味違うスリランカカレーが食べたいと思ったら、迷わずこの店、アジアンフーズ。「インドカレーとの違いはスパイスとトマトの量ね。油をほとんど使っていないからさっぱりしているとお客さんに言われます」。スリランカなまり(?)の流暢な日本語も魅力的なオーナーのアラチイさん。スパイスには咳に効くもの、体を温めるもの、コレステロールを減少させるもの、脂肪を燃焼しやすくするものなどからだに良いものがいっぱい。スリランカカレーは薬膳料理なのだわかりました。ココナツ入りのスリランカナンは香りが高く、ひよこ豆のカレーと相性抜群。スリランカビール、ココナツから作った蒸留酒もあります。お得なランチは、2種類のカレーにナンもしくはライス、紅茶がついて1000円。クリスマス特別メニューはやっぱりチキン。スパイシーな味を堪能してください。「スリランカは宝石の国、紅茶の国、スパイスの国です。スリランカを感じて欲しいから、日本人向けには作らない」。本場の味の誇りです。



〒190-0004 立川市柏町1-13-9  
TEL 042-536-7061  
090-2749-8969  
営業時間 AM11:00~PM11:00  
(休憩時間 平日のみPM3:00~5:00)  
年中無休



写真：松本賢子

立川と多摩地域が  
もっと楽しいホームページ

多摩てばこ  
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てばこネット編集工房  
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F  
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609  
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじようらくがじょう

スカイパーフェクトTV 216ch、マイ・テレビ 84ch

土 曜 午前9時~9時15分  
午後7時15分~7時30分  
再放送/火曜 午前9時~9時15分  
午後7時45分~8時  
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十七年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

Advertisement for Lumine featuring a cartoon character and text: ルミネのお買い物がお得がいつでも5%OFF. ルミネカード新規会員募集中. ショッピング/午前10:00~午後9:00 ※7Fは午後10:00まで レストラン/午前11:00~午後10:00 ※ロフト/午前6:30~午後10:30 (日・祝は午後10:00) スターバックス/午前7:00~午後10:00

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……いろいろなコミュニケーションがあります。私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、行なっている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから印刷加工までを自社内で完結しています。

PLANNING・DESIGNING  
PROCESSING・PRINTING  
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13  
大廣社 FAX.527-1949  
042-527-1911 E-mail info@daikousya.jp





### 「水門」

1989年 100F

多摩川で最初に私の魂に語りかけてきた風景とあっていい。明るく穏やかな風景が新鮮に感じられた。

冬とはいえ、空は温かみのある色を帯び、真夏どきにあれほど川岸に繁茂していた葦もすっかり枯れ、痕跡を残す程度である。

水量が減り、たゆたう水面に、水門がかすかに息づいている。土手の上の建物や電柱が自然の中にほのぼのとした生活感を加え、ゆったりとしたイメージが囁くように詩うように、川面から水門を経て空へと広がっていった。

画面には入っていないが右側に堰があり、当時は冬の減水期、テトラポットづたいに対岸に渡ることもできた。その辺りは河川改修で激変し、水門の背景もその後できた高層建築で大きく変貌したが、私にとって多摩川の原体験というべきなつかしい風景だ。